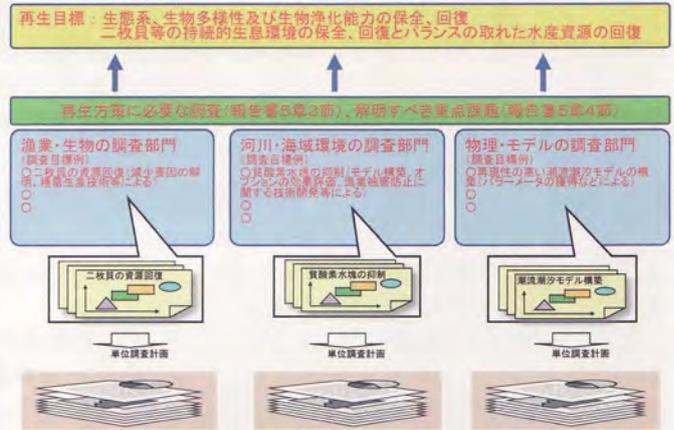


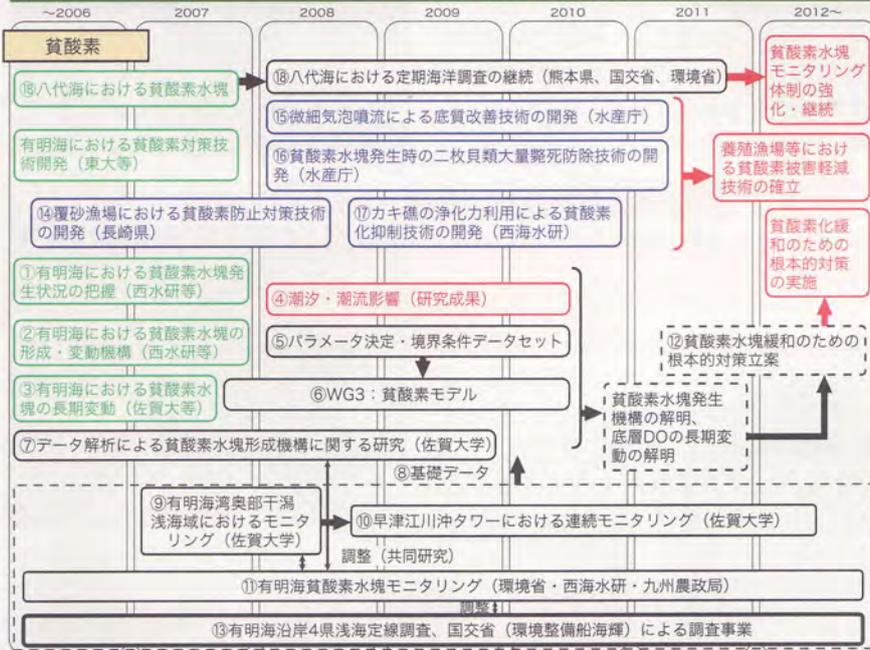
### 環境省「調査のマスタープラン」作成1年目を終えて

有明海再生機構では、環境省が平成19年度に始めた有明海・八代海総合調査推進事業を独立行政法人水産総合研究センター、いであ株式会社と共同で受託し、「調査のマスタープラン」の作成業務に携わりました。

この業務は、国、県、大学等の研究成果や研究計画を収集し、有明海・八代海の再生に向けて、今後研究すべき課題を明らかにするとともに、関係する研究機関等の調査研究の効率化を図るため、情報共有の促進や連携強化に資する措置を提言する試みです。



### ロードマップの例



マスタープランはロードマップ形式で整理しましたが、今後の調査研究課題を体系的に取りまとめるという、これまで経験したことがないアプローチのため、西海区水産研究所、いであ、有明海再生機構の関係者は試行錯誤的な取組に終始しました。

その中で、関係者の献身的な働き(特に報告書作成に御尽力いただいた有明海再生機構の先生方)のおかげで、初年度としては一定の取りまとめができたものと自負しています。

一方で、マスタープランの内容を充実するため2年目以降の課題としては、特に

- ・ 関係する国、県の方たちとの意見交換会等の実施
- ・ ロードマップに取り込む情報量の充実
- ・ 関係する研究者等(特にモデル関係)の連携協力、情報交換の推進

が考えられます。

さらには、調査のマスタープランを有明海の再生に如何につなげていくかが大きな課題です。

いずれにしても効率的な研究推進のためには、説明すべき最も重大な問題に対して関係者が連携協力して、重点的に研究を進めることが重要であり、本マスタープランはその道しるべとなるものと考えており、有明海再生機構としても、引き続き本業務に関係していきたいと考えています。

## 有明海講座レポート

9月から毎月開催しておりました、平成19年度有明海講座(全6回)も毎回多くの有明海に興味のある方々にご参加いただき無事全6回を終えることができました。後半の開催状況についてご報告します。

### 12月 「有明海の底生生物」

長崎大学 玉置 昭夫教授

永年、有明海の底生生物に関して研究を行われている、長崎大学水産学部の玉置先生にご講演いただきました。

現在、有明海のアサリは漁獲量が非常に少なくなっていますが、この現象について、アナジャコやニホンスナモグリなどの他種との種間関係や基質の性状の変化などに着目した、総合的な見地から解説がありました。

玉置先生は、膨大な量の現地調査を実施されており、今回も、最新の研究成果をご紹介いただくなど、大変貴重なご講演をいただきました。



### 1月 「風景で見る有明海」

NPO法人有明海ぐるりんネット 北村 和秀氏

「有明海を元気にしよう」、「盛り上げていこう」という思いで活動されている、NPO法人有明海ぐるりんネットの北村和秀さんを講師に迎え、有明海の被写体としての魅力をテーマにご講演いただきました。

講演では、有明海の夕日や、漁の様子、有明海沿岸地域で行われている祭りの様子など、たくさんの写真を見ながら、撮影時のエピソードや、有明海に対する想いなどをお話いただきました。

昭和天皇が植樹祭のために佐賀県に行幸されたときに歌われた「めずらしき海蝸牛も海茸も滅びゆく日のなかれといのる」という歌が紹介され、昭和天皇の有明海に対する想いが感じられました。

講演の最後には「みなさんも有明海を好きになって欲しい。そして有明海からも愛されてほしい」と発言され、聴講者に対し、暮らしている私たち一人ひとりの行動によって、有明海の色々な問題が解決できるのではないかというメッセージを伝えられました。



### 2月 「有明海の潮流・潮汐メカニズム」

九州大学 小松 利光教授

有明海的环境変化の要因として注目されている潮流・潮汐をテーマとして、九州大学の小松先生にご講演いただきました。

小松先生は、流体力学の専門家として、江戸時代から行われてきた有明海の干拓によって、有明海の潮の流れがどのように変わってきたのかを説明いただきました。

有明海のような内湾では、潮の速さが奥行きで決まってくるという説明があり、諫早湾干拓の潮受け堤防の設置で、有明海の流速は遅くなっているとのことでした。

講座のテーマが注目されていることを証明するように、会場には定員を上回る約70名の方が聴講に来られ、講義の後は、たくさんの質問も行われるなど、非常に盛会な講義となりました。



## ◇有明海知っ得情報◇

### 有明海(4月～8月)旬の魚

( )内はおいしい食べ方



サルボウ(煮付け・佃煮・缶詰)



クルマエビ(活きづくり・天ぷら・塩焼き)



アキアミ(あみ漬)



エゾ(刺身・酢めた・唐揚げ)



イイダコ(煮付け)



ウミタケ(酢めた・干物・粕漬)

## 福岡都市圏交流事業 「有明海講演会」レポート

3月8日(土)に天神ビル(福岡市天神)にて有明海講演会を開催しました。2回目となる今回は、昨年有明海講演会を開催した際に行ったアンケートで要望が多かった「有明海の歴史と文化」をテーマに、佐野常民記念館の福岡博館長と佐賀県有明海再生課川村嘉応博士を講師にお招きし開催しました。

福岡博館長には「有明海の歴史と文化～日本の文化はここから始まった～」と題して、有明海の成り立ちや知られざる歴史、日本に誇れる文化など有明海の歴史と文化について幅広くご講演いただきました。今まで知らなかった有明海の一面、魅力を再発見することができました。



福岡 博氏



川村 嘉応氏

川村嘉応博士には「有明海のノリの歴史とおしさ」と題して、ノリ養殖の歴史や有明海のノリのおしさの秘密などをわかりやすくご講演いただきました。

有明海のノリを食べていても普段知ることのないノリの養殖の歴史、またノリの養殖から入札、私たちの食卓にあがるまでの過程を知ることができ、とても興味深く講演を聴くことができました。

参加者アンケートでは、「有明海の歴史は興味深かった。」「ノリの話はなかなか聞く機会がないが、面白く為になった。」「有明海の生き物紹介VTRを見て有明海の素晴らしさを再認識した。」などのご意見を頂きました。

当日は福岡県の方を中心に約100名の参加があり、福岡県でも有明海に関心を持っている方が多くいらっしゃることを実感しました。



有明海講演会の様子

## 有明海の四季～春～

5・6月写真提供：NPO法人有明海ぐるりんネット 北村和秀氏



### 潮干狩り

有明海での潮干狩りは、満潮時に船で海の真ん中まで行き、潮が引くのを待ちます。「干満の差」を利用し、潮が引いているときだけという有明海ならではの潮干狩りができます。

### ガタリンピック

佐賀県鹿島市「道の駅鹿島」に隣接する有明海の干潟で毎年初夏に開催されています。ガタスキー競技など干潟で泥だらけになりながら楽しむことができます。

### 筑後川のエツ漁

毎年5月1日にエツ漁が解禁。産卵の為、初夏に筑後川を上ります。筑後川に初夏の訪れの合図となります。

※「エツ(カクチイソ科)」は日本では有明海のみに生息する大変珍しい魚です。

### ムツゴロウ

有明海を代表する生き物。冬の寒い日や真夏の暑い日には巣穴からなかなか出てきません。見に行くならオスがメスに盛んにジャンプしてプロポーズする、5～7月の産卵期がおすすです！

5月

4月

6月



潮干狩り



ガタリンピック



朝陽漁



## 支援会員の活動紹介

### 第1号 九州電力株式会社様

今回から、有明海の再生を願う当機構の活動を支援してくださっている会員皆様の活動を紹介していきます。第1号は、九州電力株式会社佐賀支店の環境保全活動をご紹介します。

#### 「九州ふるさとの森づくり」～100万本の植樹を行っています～

九州電力では、環境保全活動の一環として、2001年度から年間10万本、10年間で100万本の植樹を地域の皆さまと一緒に九州各地で展開しています。

ここ佐賀県では、二酸化炭素の吸収・固定だけでなく、防災・水源かん養機能が高く、生物多様性にも富む、その土地本来の常緑広葉樹を主体とした、できるだけ自然に近い「ふるさとの木によるふるさとの森づくり」に力を入れて取り組んでいます。

さらに、森はミネラルの供給源となり、豊かな海をはぐくみ、支える役割も果たしているといわれています。植樹した木々が一日でも早く成長し、豊かな有明海のために役立ってほしいと考えています。



佐賀平野、そして有明海を望む大町のボタ山。森が海へとつながっている様子がまさに実感できます。(平成19年9月、39種 1万5千本植樹)

#### 多くのボランティアに支えられています

佐賀県内では、これまでの7年間で約8万5千本の植樹を各地で実施してきましたが、のべ1万人ものボランティアの方々にご協力いただきました。昨年9月の大町の植樹(右上写真)でも、炎天下にもかかわらず約1,100名ものボランティアが参加されました。植樹された苗木は、その後順調に生育しています。

九州電力では、これからも九州の森づくりに取り組んでいきます。毎年、各地で植樹イベントを開催しておりますので、多くのボランティアの皆さまのご参加をお待ちしています。

また、佐賀県で進められている県民協働による森づくりの輪が有明海の再生とともにさらに大きく広がっていくことを期待しています。

#### <お問い合わせ>

九州電力株式会社 佐賀支店総務グループ  
(大串・鶴) 電話:0952-33-1194

## 正会員のご紹介

有明海再生に関する研究を学術的に行う大学等の研究者で構成される正会員に、新たに入会していただきました。

### ■濱田孝治講師(佐賀大学有明海総合調査プロジェクト)

私はもともと沿岸の物理環境(流れや水温、塩分)の数値シミュレーションを研究テーマとし、MEC Ocean Model(日本造船学会海洋環境研究委員会による数値モデル)の開発に携わりました。また、有明海を対象として、潮汐、河川流入、風などの変動に伴う残差流の変動についての研究を行ってきました。現在は、その経験を生かし佐賀大学有明海総合研究プロジェクトでモデル開発を担当しています。定量的な考察に耐える精度を持ったモデルを用い、異変についての仮説を丁寧に検証していくことで、有明海の再生に貢献していきたいと思っております。

再生機構の一員としては、勉強会などを通じて、シミュレーションの結果を解釈するのに必要となる数値モデル一般についての知識の共有にも貢献したいと考えています。よろしくお願いいたします。



### 編集後記

新年度になり、今回から新たに「有明海の四季」「支援会員の活動紹介」コーナーを設けました。

支援会員の皆様、ふるって活動情報などをお寄せください。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

### 発行

NPO法人 有明海再生機構事務局

〒840-0833 佐賀市中の小路4-30高取ビル302号

TEL(FAX兼用): 0952-26-7050

E-mail: npo-ariake@ceres.ocn.ne.jp

ホームページ: <http://www.npo-ariake.jp/>